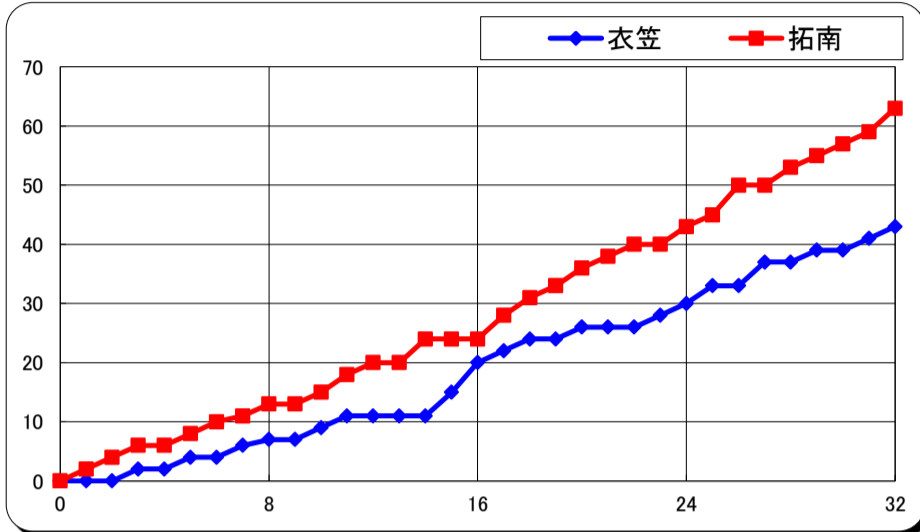




【得点経過】



大会名	東日本大震災復興支援 平成24年度全国中学校体育大会 第42回全国中学校バスケットボール大会											
会場	春日部市総合体育館											
日時	平成24年8月23日(木) 13:30											
コート	Fコート	第4試合										
カテゴリー	男子	決勝トーナメント										
主審	平林 達哉	(福島県)										
副審	大野 哲広	(奈良県)										
Team A		Team B										
衣笠 (神奈川県)	43	拓南 (愛媛県)										
	<table border="1"> <tr><td>7 1st</td><td>13</td></tr> <tr><td>13 2nd</td><td>11</td></tr> <tr><td>10 3rd</td><td>19</td></tr> <tr><td>13 4th</td><td>20</td></tr> <tr><td>OT</td><td></td></tr> </table>	7 1st	13	13 2nd	11	10 3rd	19	13 4th	20	OT		63
7 1st	13											
13 2nd	11											
10 3rd	19											
13 4th	20											
OT												

【BOXスコア】

Team A		衣笠					
番号	選手名前	出場	得点	3P	2P	FT	反則
4	山村 海斗	×	2	0	1	0	4
5	富樫 颯人	×	23	1	10	0	3
6	外館 拓海	×	8	0	4	0	2
7	野崎 恭平	/	0	0	0	0	1
8	中山 蓮	×	6	1	1	1	4
9	島村 朋也	×	0	0	0	0	0
10	小向 幸四郎	DNP	0	0	0	0	0
11	米山 南幹	DNP	0	0	0	0	0
12	奥山 喜理人	/	4	0	2	0	3
13	荒井 虎太郎	DNP	0	0	0	0	0
14	今村 龍玄	DNP	0	0	0	0	0
15	滝口 了也	DNP	0	0	0	0	0
16	佐々木 ムライラシード	DNP	0	0	0	0	0
17	岩崎 琢朗	DNP	0	0	0	0	0
18	大河内 司	DNP	0	0	0	0	0
監督	鈴木 千秋						0
コーチ	野沢 俊輔						0
合計			43	2	18	1	17

Team B		拓南					
番号	選手名前	出場	得点	3P	2P	FT	反則
4	富谷 覚	×	16	4	2	0	0
5	山崎 竜之介	DNP	0	0	0	0	0
6	橋 十志貴	×	7	0	3	1	2
7	武田 星太郎	/	0	0	0	0	0
8	高石 将一朗	×	9	1	0	6	0
9	沖田 剛	/	0	0	0	0	0
10	松尾 季風	×	21	0	9	3	3
11	苗田 将輝	×	10	0	4	2	1
12	篠浦 拓心	DNP	0	0	0	0	0
13	露口 祐輔	DNP	0	0	0	0	0
14	松本 雅樹	/	0	0	0	0	1
15	安田 兼大	DNP	0	0	0	0	0
16	時岡 風弥	DNP	0	0	0	0	0
17	片山 耕稀	DNP	0	0	0	0	0
18	大丸 智樹	/	0	0	0	0	0
監督	尾下 桂子						0
コーチ	坂本 和典						0
合計			63	5	18	12	7

【戦評】

決勝トーナメント1回戦、予選Cリーグ2位の関東ブロック代表衣笠（神奈川）と予選Bリーグ1位の四国ブロック代表拓南（愛媛）の一戦。1Q、衣笠、拓南共にハーフコートマンツーマンDefでスタート。拓南#11の連続得点から試合が動き出す。お互いアウトサイドシュートが入らずロースコアの展開となる。衣笠は拓南の厳しいDefに対して、ボールを展開してからのペネトレイトでシュートまでいくものの、なかなか得点を決めることができない。一方、拓南は#11を起点に、#10のインサイド、#8のドライブなどでリズムを掴もうとする。衣笠のファウルを誘い、フリースローを決めてじりじり引き離していく。衣笠7-13拓南で終了。2Q、お互い固いDefで簡単にシュートを打たせない中、衣笠は#4や#5、拓南は#4や#10のシュートで加点していく。9点差となったところで衣笠がタイムアウトを取る。その後、拓南#10の連続得点があったが、衣笠も#8の3Pを含む連続9得点で追い上げを見せ、衣笠20-24拓南で折り返す。

3Q、衣笠は拓南の厳しいDefに対し、インサイドを攻めきれず苦戦する。拓南は#11を起点にインサイド、アウトサイドと効果的に得点し、少しずつ流れが拓南に傾き始める。拓南の連続7得点により14点差となったところで、衣笠はタイムアウト。衣笠は2-2-1ゾーンプレスDefに変更して流れを変えようと試みるが、衣笠30-43拓南で終了。4Q、衣笠はオールコートマンツーマンDefにしてプレッシャーをかけるが、拓南は24秒を有効に使い、落ち着いてOffを組み立てていく。衣笠は#5を中心に必死に攻めるがシュートが入らない。拓南は#4の3Pや#10のインサイドとリズム良いOffで、衣笠に流れを渡さない。そのまま拓南が逃げ切り、衣笠43-63拓南で試合終了。アウトサイドからのシュートが入り始め、傾きかけた流れをしっかりと掴んだ拓南が準々決勝へと駒を進めた。

【戦評記入者】

高橋 真也